

第 14 回 「DMAT をご存知ですか？」

2016 年 3 月

私は泌尿器科専門医ですが、日本 DMAT 隊員でもあります。DMAT とは、Disaster Medical Assistance Team の略で、地震や津波等の自然災害は勿論、多数の傷病者が出る自動車事故や列車事故、飛行機事故等の災害時に、素早く行動できる専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームのことで、はまゆう病院には私を含め医師 2 名、看護師 4 名、業務調整員 2 名が厚生労働省医政局長の認可を受けた日本 DMAT 隊員として勤務しております。

DMAT の活動は防ぎ得た死をゼロに近づけるためのシステム作りと医療活動で、災害医療では救出する人の順番も含め、何を優先すべきかを常に考えながら行動しなければなりません。実際には指揮系統の樹立、患者の広域(主に被災地域外への)搬送、情報発信と情報収集など盛りだくさんの内容を、消防隊、自衛隊などと連携しながら常にシステムを新しく更新しつつ、臨機応変にこなさなければなりません。我々は定期的に全国の DMAT と実地訓練を重ねていますが、本当の災害時にはもっと複雑、緊張、困難かつ長時間に渡るものと思います。

みなさんは災害への備えはどのようにされているでしょうか？まずは一人ひとりが自覚をもって自分の安全は自分で守ることがもちろん最優先です。災害は起こらないにこした事はありません。病気にもならないにこした事はありません。しかし、残念なことに起きてしまう事もあるのです。そんな時に適切に対応でき、可能な限り命を救い、人の役に立ちたい。実際の大規模災害時には自分はどれだけのことができるだろうか？医療人としてそんなことを考えながら日々過ごしています。

DMAT は災害時に活躍できる機動性をもった医療チームです。おわかりになっていただけましたでしょうか？今後も各地で開催される研修や訓練に積極的に取り組み、研鑽を積んでいきます。そして、あってはならない事ですが、万が一災害が起きたときには、迅速かつ十二分な活動が出来るよう、準備していきたいと思います。

(木村)

